

# 女子医大事件

## 術後「対光反射なし」

### 佐藤医師 瀨尾医師と食い違い

東京女子医科大病院で、平柳明香さん(当時12)が死亡した事故で、人工心肺を担当した医師佐藤一樹容疑者(38)業務上過失致死容疑で逮捕が、手術後に集中治療施設(ICU)で、明香さんの瞳孔に光を当てても反応がなかった」と供述していることがわかった。

「対光反射」がないことは脳死判定基準のひとつで、病院の調査報告では、昨年3月2日の手術当日、対光反射は「あった」とされていた。明香さんは手術当日、回復不可能な脳障害を負っていた可能性が高い。

また手術チーム責任者の医師瀨尾和宏容疑者(46)証拠隠滅容疑で逮捕は警視庁の調べや朝日新聞の取材に「手術当日の反射はあった。術後管理をしっかりとすれば回復する可能性があった」と話していた。警視庁は、チーム内で反射をめぐる

証言が食い違っているため、さらに事情を聴く。調べでは、佐藤医師は手術終了後から翌日昼まで、ICUで明香さんの治療に当たった。明香さんは意識はなく人工呼吸器をつけられていたが2日後に死亡した。2日、瞳孔に光を当てると反応はなく、直径は6ミリだった。

対光反射の有無は、呼吸や脈拍、血圧調節などの機能を担う脳幹が機能しているかを示す。臓器移植法に基づく脳死判定では、反射がないことはほか深い昏睡、自発呼吸

がない、瞳孔直径が4ミリ以上——などの状態になれば脳死とされる。脳神経外科の専門家は「対光反射がなかったのは手術中に大脳だけでなく脳幹にまでダメージを受けたからだろう。手術当日の時点で回復不可能

な状態だったのではないかと指摘する。また瀨尾医師は手術直後、明香さんの家族に

「手術はうまくいった。人工心肺を外すのに時間がかかった」と説明したという。説明に立ち会っ

た佐藤医師は調べに「家族には脳のことば言っていないな、と思った」と供述している。

女子医大小児心臓手術事故

佐藤医師供述

2002年7月18日 朝日新聞